

今日の開催に関して

本日、安全保障学生講座を開講します。三連休前だから参加しやすいだろうと思っていたのですが、研究論文発表やアルバイト、長期旅行とかぶってしまい、想定半数の参加になってしまいました。

とても残念なことであり、想定を誤ったことについて、忙しい中来てくださった皆さんに対して申し訳なく思っています。

しかし、今日お集まりの皆さんはもちろん、少なくとも同世代（若者）が安全保障という話題に関心を持っていることもまた確かであります。

主催者としては、今日の活動及びこれまでの活動を踏まえて、今後の活動を考えていくことに全力を挙げるのみです。皆さんのご意見・ご叱責・ご支援を励みにしたく思います。よろしくをお願いします。

安全保障の意義については今日の学生講座でじっくりと味わっていただければと思います。少ない人数の分、濃い時間を皆さんと共に出来ればと思います（大江）。

これまでの開催を踏まえて

参加者からの感想・意見です。その他についてはパンフレット（24、28頁）をご覧ください（三森）。

- ・大変面白かった。「安全保障」のイメージと違った。
- ・現在の日本政府のネゴシエイト能力の低さに鑑み、文理を超えた横断的教育の検討など次世代の日本を支える人材育成の必要性を感じた。
- ・技術開発が軍事技術の発展に繋がるということに、倫理的抵抗感を覚えないわけではない。
- ・もう少し議論がしたい。
- ・国家戦略の見地からの検討が必要だと感じた。
- ・安全保障について何が問題で、どうすればいいのかがあまり分からない。
- ・我が国は技術立国という認識が一般的であるが、我が国の技術で安全保障を満たせるかどうかよくわからない。

組織名を「Cubic Argument」に決定

決選投票を経て、以下の得票により決定しました。

1位 Cubic Argument	22票
2位 球議	10票

（事前投票での他の案： アトラスメイカー、Multi Dimension Argument、WOLF）

投票期間中、各案が活動理念・内容をどのように反映しているのか、という質問を受けました。

「Cubic Argument」という組織名には「我々が世代として活躍していくために、個々の価値観・立ち位置を明らかにした議論（立体的議論）をしよう」という考えが表されています（豊田）。

■Column■ この世代はどこへ行くか

私たちの世代—学生と新社会人の混濁—には互いに集まろうという意思がある。そして現に無数の学生団体がある。学生団体ブームとっていいだろう。当会もそのブームの中にあるとって差し支えない。そして、これからについて考え、行動するための時間がある。大学生にまでも考える時間がある。そして多くの学生は真剣に将来を考えて、一生懸命に活動している。

私たちの世代には内ゲバも無ければ、入試もある。貧しい人は少なくないが、大学生にはなれる環境が整っている。敢えて中卒、高卒で就職しなければならない事情は無い。

私たちの世代は物質的に恵まれている。しかし、物質的環境に比例するように精神的環境も豊かになっているかといえば、そうではないように思える。大学受験に、就職活動と次々に現れるハードルを越えることに必死にならざるを得ない。そして、資格や知識など持てる武器を持つだけ持ち、一「個人」として社会に歩み出す。その過程に「国家」は必然的には存在しない。そして、「国家」は客観的な対象として「個人」の目線で論じられる。

自由な個人の生き方とは斯くの如くなのか。そうした個人は国家の下に団結するのか。「国家」を否定しない世代が一生懸命に考え、行動した結果は我が国ではいかなる形で結実するのだろうか（大江）。